

Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)



Niigata Award

ごあいさつ

第6回食の新潟国際賞 受賞者記念講演会

第6回食の新潟国際賞 祝辞

第6回食の新潟国際賞 開会・閉会の挨拶

2021/2/15 第38号 第6回食の新潟国際賞表彰式特集号

2021年ごあいさつ



日頃当財団の運営や活動にご理解とご協力を頂き心から御礼を申し上げます。

2011年は新型コロナの感染の拡大で明けましたが一刻も早い収束を願うのみです。

さて昨年11月24日には「第6回食の新潟国際賞」の表彰式を新型コロナ禍ではありましたが開催し、国際賞を国内外に発信することができました。

大賞には故中村哲氏・ペシャワール会、PMS（平和医療団・日本）佐野藤三郎特別賞には大坪研一氏、21世紀希望賞が矢野裕之氏、今回から制定された新潟県在住者を対象とした「地域未来賞」には江川和徳氏がそれぞれ受賞され、会場及びオンライン中継で多くの方々の祝賀を受けるとともに、大きな反響もいただきました。

さて、国連では飢餓と貧困の根絶と持続可能な社会を築くためSDGsの17の目標を掲げ2030年の達成をめざし世界的な運動として取り組まれております。

当財団も「食と生命」をテーマに食の新潟国際賞を通じて世界の人々の健康と福祉、平和に少しでも役立ちたいとの思いを強く持ち、活動続けてまいります。

今年は「第7回食の新潟国際賞」の候補者募集年であり国内外からの多くのご応募いただくことを大変期待しております。

「食の新潟国際賞」は日本の一地方から生まれた「食」を対象とする国内では唯一の国際賞です。

今後とも財団の活動に皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 食の新潟国際賞財団
理事長 池田 弘

第6回食の新潟国際賞 受賞者記念講演

大賞 | 中村哲・ペシャワール会・PMS (平和医療団・日本)

ペシャワール会 会長・PMS総院長：村上 優 氏

中村哲医師はいつも前線で働いていました。活動は1984年から始まり、医療から水事業そして農業へ広がりました。

同年にペシャワール（パキスタン）のミッション病院に赴任した折には戦争が始まっていて、当時300万人といわれたアフガニスタンの難民がいました。必然的に難民医療に取り組むことになり、ジャパンアフガンメディカルサービス（JAMS）を作り、それが後のPMS（平和医療団・日本）になります。

戦争が終わった後、難民が帰還する東部山岳地帯がハンセン病の多発地帯であるため診療所を設置。2000年の干ばつによる農村荒廃や、弱った体に汚い水を飲み、病気で亡くなる子どもたちに遭遇し、「命を守るには薬よりも水が必要だ」と井戸を掘り始めます。1600本も掘ったが、次々に井戸が枯れてしまうため03年にマルワリード用水路建設が始まりました。

現地の技術を用いた人海戦術に加え、200年以上前に造られた九州・筑後川の「山田堰（ぜき）斜め堰」の技術を応用し用水建設のモデルにしました。もし崩れても現地住民が自分たちで修復できるから。用水路により砂漠だった土地が緑にあふれ、たくさんの難民が故郷に戻り生活できる基盤を造れました。



彼にとって医療も水事業も農業も「命をつないでいくこと」が目標でした。その背景には、いつも貧困と戦争が迫り、温暖化による干ばつ問題がありました。「平和とは観念でなく、実態である。食べるものがないと人は争う。だから食べられるようにする。それが平和の実態だ」と何度も話していました。

18年にアフガニスタン政府も中村医師が実践したPMS方式の事業を採用することを決定。「緑の大地計画」という干ばつ事業がさらに広がろうとした昨年12月4日、亡くなりました。

これまで中村医師の努力と実行力によって事業は進んできました。彼を亡くしてわれわれも戸惑っていますが、PMSは事業を継続し、中村医師の活動を支えてきたペシャワール会も平和で自立的な事業継続をするまで20年計画を立て支援・継続をしていきます。

佐野藤三郎特別賞 | 大坪 研一 氏 新潟大学自然科学系・フェロー 新潟薬科大学応用生命科学部・特任教授

私の尊敬する佐野藤三郎先生の特別賞に選出していただき、心より感謝申し上げます。私は米の食味評価、米のDNA品種・産地判別技術、健康機能も備えた新しい米加工食品の開発に取り組んできました。

米の食味評価は、外観、味、香り、硬さなど実際に人が食べて行う食味試験が主ですが、私の研究は、化学分析などを行い測定値から食味を推定するものです。2017年産の魚沼産コシヒカリが食味検査で特Aから落ちた際も、理化学的評価を行ったところ、他産地の特Aを取ったブランド米と同等な結果が分かり、論文発表しました。最近では県産新品種「新之助」の食味特性も解明しました。米の産地偽装事件など食品の偽装表示が起こったことから、法改正が行われ、米の品種産地などの表示が義務化されました。稲、米の品種・産地を特定するため精米のDNAを使ったPCR法による判別技術を開発。その後、精米1粒・米飯1粒でも可能になりました。

国内の主要品種はコシに似た近縁種で、DNAも酷似していますが、新潟県産コシヒカリ判別キットも開発し実用化。私どもだけでなく、いろいろなキットの販売が伸びた結果、他県産コシとの判別もでき、偽装表示が減っていきました。



この技術を応用し、育種段階、種子配布段階、農産物検査での品質確認をはじめ、密輸米の鑑定や弁当・加工米飯など原料米の品種確認などに幅広く適用されています。

機能性米加工食品の研究は新潟薬科大を代表とする県、新潟市、新潟大、食品企業や農事組合法人との「糖尿病・認知症複合予防効果のある米加工食品の開発」を目的とする共同プロジェクトに発展し、現在進行中の課題となっています。

受賞を機に米に関する研究開発を続けるとともに佐野先生のご功績を若い世代に伝え続け、海外との技術交流や人的交流の推進に少しでもお役に立てればと思います。

第6回食の新潟国際賞 受賞者記念講演

| 21世紀希望賞 | 矢野 裕之 氏

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
食品研究部門 食品加工流通研究領域
食品素材開発ユニット・ユニット長

グルテンや添加物を使わずに基本材料だけで膨らむ米粉100%のパンを作製する技術を開発し、特許を登録。広島大学と共同で米粉パンが膨らむメカニズムを明らかにしました。アレルギーなどで小麦粉やグルテンを食べられない人がいるからです。

小麦粉でパンを作る場合、グルテンという強いたんぱく質が持つ高い粘性によって、酵母が出す発酵ガスを閉じ込めてパンが膨らみます。米粉にはグルテンが生成しないので、発酵ガスを閉じ込めることができなかつたのです。

広島大学との共同研究で米粉パンの発酵生地は、でんぷん粒が発酵ガスを包みこんで、しゃぼん玉のように膨らむ「微粒子型フォーム」の原理で膨らむことが分かりました。小麦粉のグルテンは強い生地ですが、微粒子型フォームは非常に壊れやすく、しゃぼん玉が集合したような生地。このしゃぼん玉を壊さないように生地を攪拌(かくはん)、発酵、膨らませ、高温で一気に焼くことで、米粉パンの生地を固めることがこつであると分かりました。



続いてタイガー魔法瓶株式会社と共同開発した米粉パンのホームベーカリーは2017年に発売され、2019年にキッズデザイン賞優秀賞「少子化対策担当大臣賞」を受賞しました。株式会社ナチュラルフードへの特許許諾・技術指導により2019年、米粉パン製品化に成功し「和田のこめ食ぱん」が発売されました。この米粉パンは味も良く、常温で1カ月程度保存できます。

今後さらにホームベーカリー、米粉パンを積極的に輸出できるように研究を続け、小麦アレルギーの人に喜んでもらうとともに米消費拡大への貢献を期待します。

| 地域未来賞 | 江川 和徳 氏

江川技術士事務所(農業部門) 所長
元新潟県農業総合研究所 食品研究センター長

私の研究活動は20年以上前の県農業総合研究所食品研究センター時代にさかのぼります。

冷凍食品があまり流通していなかった昭和50年代に、センターが行っていた笹団子の冷凍解凍技術の研究は、その草分けで、包装餅の無菌化製造技術も、本県の餅業界が一番早かった。この技術は、包装パック米飯にも利用され、家事の省力化にもつながりました。

平成に入ると消費者ニーズが多様化し、多機能微細米粉の研究開発を進め、米粉パン製造の道を開きました。また腎不全者などに向けた低たんぱく質米飯の研究開発を行い、全国に先駆け、いち早く実用化しました。

2005年に退職した後は、21世紀の新潟は農工連携の新しい産業創成が必要だとする恩師の言葉に従い、これに資する活動をしようと決めました。県内の食品産業企業数や農業生産額が減少する中、農工が連携した新産業のために着目したのが玄米で、健康分野で期待ができます。



厚生労働省による県内の死亡要因は、脳血管障害と胃がんが全国平均を上回っており、玄米を食べることで病気を予防し、長寿県を目指したいと考えました。玄米粉で作るパンが、白米粉でつくるのと同じように膨らむ技術の開発を進めています。

私の夢は、玄米で新しい新潟の郷土食が作られること。そして県民はもちろん、県外から新潟を訪れる人たちにも新潟の郷土食を食べて元気になってもらいたい。今回の受賞は私のような後期高齢者が未来賞で良いのかという疑問もありますが、奨励賞と捉えて気持ちを新たに研究に励んでいきたいと思ひます。

第6回食の新潟国際賞 祝辞

第6回食の新潟国際賞表彰式には多くの御来賓からご祝辞をいただきました。心から御礼申し上げます。ご祝辞の要約をご披露いたします。

松本 雅夫 様

農林水産省 大臣官房 審議官

第6回食の新潟国際賞表彰式にあたり国際賞を創設・運営されている食の新潟国際賞財団の池田理事長や財団関係者のご努力に敬意を表します。

また受賞者の皆様には長年にわたる優れた研究や活動が評価されました。そのご労苦とご功績に敬意を表しお祝いするとともにご活躍をお祈り申し上げます。国際賞の取組は、我が国有数の米どころで食の一大産地でもあり、平成28年4月にはG7農業大臣会合が、令和元年5月にはG20農業大臣会合が開催された、農や食を世界に発信する力を持った新潟にふさわしい、世界貢献の一つであると考えています。

新潟市は、先人のたゆまぬ努力と土地改良によって過酷な条件を克服した、我が国有数の農業地帯であり、みなとまちの歴史と豊かな農水産物、盛んな食関連産業を背景とした新潟の食の力を感じます。農林水産省としても、農や食の重要性を世界に発信することができる新潟を心強く感じており、「食の新潟国際賞」は新潟にふさわしい、世界への貢献の一つです。

大賞を受賞された故中村哲氏、村上総院長はじめとするペシャワール会の崇高な活動は、多くの日本人が認識しており、現地でも高く評価され、アフガニスタン国家勲章を受章されています。

中村氏が2019年12月に銃撃により亡くなられたことは痛恨の極みであり、心からご冥福をお祈りするとともに、これまでのご功績に対し敬意を表します。

日比 絵里子 様

国際連合世界食糧農業機関（FAO）駐日連絡事務所 所長

第6回食の新潟国際賞という大変名誉ある各賞を受賞された中村哲様、ペシャワール会様、PMSの皆様、大坪研一様、矢野裕之様、江川和徳様の受賞者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

現在の新型コロナウイルスの世界的な拡大は食糧の生産から消費に至るまでのシステム全体に極めて深刻な影響を与えており、世界の食糧システムはかつてない危機にさらされています。今年10月16日の世界食糧デーでは現場で活躍された方々を「フードヒーロー」と讃え、感謝する活動を実施しました。

食の新潟国際賞の受賞者の皆様はまさにこの「フードヒーロー」であり、国際賞財団とFAOの取り組みは完全に一致しており、この食の新潟国際賞は誠に時宜を得たものであると思います。

国連は持続可能な開発2030アジェンダを採択し、5年を迎えようとしているが世界の飢餓に苦しむ人の数は紛争や気候変動、経済停滞などで倍増傾向にあります。

最近のデータでは6億9千万人、11人に一人は栄養不足にあり、新型コロナウイルスの影響で今年（20



現地の人々自身の力で安定した生活を取り戻し、食糧を自給するための灌漑水路の建設活動は、農林水産省の取組とも合致し、ペシャワール会の活動が継続・発展していくことを祈念します。

大坪様、矢野様、江川様の共通する研究活動は、お米の分野の功績であり、農林水産省としても、日本の食料・生活を支える重要なものだとして認識しています。人口減少や生活の変化によるコメの需要の低下などの課題がある中、「食料・農業・農村基本計画」において、“米の機能性など「米と健康」に着目した情報発信”、“消費者ニーズを踏まえた商品開発”、“企業と連携した消費拡大運動の継続的展開”を掲げています。また農林水産物・食品の輸出、食料安全保障といった面で海外との関係も含めて、コメに関する研究は、その推進に大きく貢献するもので、皆様のご研究・ご活動は、現在農林水産省が取り組んでいる重要な施策にも密接に関連し、その推進に大きく貢献しております。皆様のお力添えをいただきながら、我が国の食料・農業・農村に関する施策を着実に推進して参ります。

食の新潟国際賞をはじめ、貴財団が取り組んでおられる活動の今後益々の発展を期待しお祝いとさせていただきます。



20年）までに新たに1億3200万人が飢餓に陥る可能性があります。加えて、カロリーだけでなく栄養バランスの整った食事ができない人が世界に約30億人いるという大きな課題に直面しております。

大目標である飢餓をなくすことを2030年の達成には私たちは互いに学び合いあらゆる経験と知識を終結・活用し問題解決に取り組まなければなりません。そのため今年の世界食糧デーのテーマ「育て、養い、持続させる、共に未来を創る私たちのアクション」があるのです。

飢餓撲滅に向けて我々FAOと貴財団、新潟県の皆様と協力を一層高めたいと考えます。

第6回食の新潟国際賞 祝辞

焼家 直江 様

国連WFP世界食糧計画 日本事務所 代表

貴財団がこれまで世界の食糧問題に向き合いその解決に寄与されましたことに敬意を表します。また本日食の新潟国際賞を受賞者の皆様に心からお祝い申し上げます。

WFPと食の新潟国際賞財団とのご縁はもとWFPの前事務局長ジョゼット・シーラン食の新潟国際賞を受賞したことから始まります。WFPは世界80ヶ国の1億人に対する食料支援を行っております。

現在6億9000万人が飢餓に陥りその要因として災害、紛争、気候変動があります。

今年WFPはノーベル平和賞を受賞いたしました。これは飢餓のとの戦いに務め平和構築にも貢献し飢餓から紛争になることを防止したこと、新型コロナウイルス感染拡大の中での活動し食糧の安全保障と平和の確立に貢献したことが理由です。

2015年に国際社会は持続可能な目標を掲げて2030年までに開発目標として飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養状況の改善を達成するとともに、持続可能な農業の推進を目指して飢餓ゼロを実現するために調査研究によって培われた知見は非常に重要で飢餓と栄養の課題を国際的議論する



ことは非常に重要であり、貴財団が寄与していることに敬意を表します。まさに未来を形づることに直結します。

食の新潟国際賞財団は食糧の量と質を確保し、健康を維持することに励んだ人の功績を讃えております。

これから更なる活動の原動力となることに、これは国連WFPが飢餓のない世界をめざして大規模に繰り広げられる支援活動にとっても重要なものです。

国際賞の設立に尽力された皆様に敬意を表するとともに益々のご発展を祈念しお祝いの言葉といたします。

花角 英世 様 (代読：新潟県副知事 佐久間 豊 様)

新潟県知事

本日は第6回食の新潟国際賞表彰式の開催を心からお祝い申し上げます。

本日、食の新潟国際賞の各賞を受賞されました皆様に心からお祝いを申し上げますとともに永年食の課題に対し献身的に取り組まれ大きな成果をあげてこられましたことに深く敬意を表します。

世界では開発途上国を中心に大幅に増加する人口や経済成長による食生活の変化等により食料需給が増加傾向にあります。

その一方で気候変動に伴い度重なる災害や政情不安による紛争の勃発長期化など食料供給は決して安定的なものではありません。

また本年3月に決定された新たな食料・農業・農村計画では持続可能な社会の実現に向けてSDGsの取り組みが広がり、人々の意識や行動が大きく変わりつつある中、新型コロナウイルス感染症などの影響も踏まえSDGsの達成に率先して対応することが、農業・食品産業の新たな成長にもつながりまた生産者と消費者や事業者との交流・連携・共同等の機会を創出することがなによりも重要であると指摘されております。

この様な考え方は食の新潟国際賞財団が理念として掲げ、多くの皆様のご尽力のもとに真摯に取り組



まれたことにほかなりません。

改めて貴財団の崇高な理念と取り組みに敬意を表するとともに世界の食の課題に挑み、顕著な業績をあげられた皆様に顕彰する食の新潟国際賞の意義は一層重要になってくるものと考えております。

県といたしましては、今後も本県のまた我が国の食と活力ある農業と農村を次の世代に引き継ぐために国際的な視点から皆様とともに取り組んでまいります。

結びに、食の新潟国際賞が世界抱える食の課題解決につながり、より一層世界でも評価されは発展されますことを期待いたしますとともに、本日受賞されました皆様並びにご出席の皆様のご発展とご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

第6回食の新潟国際賞 祝辞

中原 八一様

新潟市長

「第6回食の新潟国際賞」の表彰式にあたり、新潟市民を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。本日受賞されました、中村哲・ペシャワール会・PMS日本を代表して村上優様、大坪研一様、矢野裕之様、江川和徳様に心からお祝い申し上げます。受賞された皆さまの今日までのご努力とご精進に対し、心から敬意を表するとともに、これまで受賞者の皆さまを支えてられました、ご家族をはじめ関係者の皆さまに心からお祝い申し上げます。受賞された皆さまは食分野において永年たゆまぬ情熱と研鑽を積み、世界が直面する食の課題の解決や発展の研究に携わり、まさに「食の新潟国際賞」の創設理念にふさわしい顕著な業績をあげられました。皆さまにはこの受賞を機に、さらに大きな飛躍とご活躍をされますことを心からご祈念申し上げます。新潟市は日本一の大河信濃川と阿賀野川に囲まれた低湿地帯で、農業には適さない厳しい土地でした。この土地を、亀田郷土地改良区を初めとする先人の努力により、乾田化の成功と米質の改善がなされ、今日の田園型政令市・新潟市の礎が築かれました。この先人の取り組みを後世に伝えていくという思いが、産業界の皆さまの発意により、食分野において世界に貢献する方々に光を当て顕彰する「食の新潟国際賞」の創設に繋がりました。創設に御尽力された亀田製菓様、ブルボン様を代表とする食品関連産業や



団体の皆さまおよび新潟県のご理解とご努力に、改めて心から敬意を表します。今回の授賞理由となりました、農業を通じた平和と発展への貢献や、米をはじめとする食品の研究開発や最新技術などの優れた知見や成果について、市民はもちろん、国内外へ発信していただくことで、農業や食の重要性や素晴らしさを改めて認識する機会としていただければと思います。また、受賞された皆さまの取り組みや研究の成果が、本市の農業や食産業と繋がりを持つことで、新たな産業の創出や発展、そして都市ブランドの向上に繋がることを期待しています。「新潟は食と花で世界に貢献する」を具現化する、この「食の新潟国際賞」が、引き続き本市の食と農業の発展に向けて重要な役割を果たすとともに、未来に向かって「全国とつながる」「世界とつながる」拠点都市・新潟の構築に向けて、共に歩みを進めていただきますことを心から期待しております。結びに、あらためて受賞された皆さまに、心からお祝い申し上げ祝辞といたします。

佐藤 正様

独立行政法人 国際協力機構（JICA） 上級審議役

食の分野ではわが国で権威ある第6回食の新潟国際賞の受賞者の皆様にJICAを代表して、心からお祝い申し上げます。大賞の故中村哲様、ペシャワール会様、PMS様の皆様は長年にわたりアフガニスタンにおいて大変な困難に屈することなく多くの井戸の掘削、用水路の建設に取り組まれました。中村様は人々の生存と幸せには食糧生産の農業が何よりも重要であり、そのためには水を確保が不可欠であると深く理解をされておられました。現在、世界各地では洪水や干ばつ等水に関わる問題が多く発生し、農業・農村開発においても水の確保をはじめ土地の強靱性の確保が課題となっております。また、中村様は現地の方々に寄り添い、信頼関係を築きましたが、これは国際協力のあるべき姿であり、信頼でつなぐビジョンはJICAの目指す姿でもあります。JICAも中村様のご遺志を引き継ぎ今後もアフガニスタンそして世界の発展と平和のために貢献してゆくことを御誓いいたします。次に受賞された大坪研一様、矢野裕之様、江川和徳様はお米の関係分野でご功績をあげた皆様です。コメは我が国において最も重要な農産物であり、



コメの可能性の将来に向けて大きく開く技術を開発されました。コメは世界全体でも多くの人と命と健康を支えており、特にアフリカではコメの消費が急増し、JICAでは10年間でコメの生産を倍増にするために協力を進め、目標が達成されたにもかかわらず生産が消費の伸びに追いつかない状態です。一方、東南アジアなどではコメの収量だけでなく品質や食味が重視されるようになっており、皆様の業績は世界の食の安全保障やフードロスの削減にも貢献します。JICAとしても農業農村開発だけでなく栄養改善や環境保全などを柱に途上国との技術協力や皆様のような研究者の方々、民間企業との連携協力を通じて未来の食、栄養、健康などの課題の解決に取り組んでまいります。

第6回食の新潟国際賞 開会・閉会の挨拶

表彰式 開会の挨拶

池田 弘 財団理事長

第6回食の新潟国際賞の表彰式にあたり、当財団を代表して御挨拶を申し上げます。

まずもって受賞者の皆様とご家族、関係者の皆様から心からお祝いを申し上げます。

また、本日の表彰式にご多用にもかかわらず農林水産省の松本審議官様、新潟県の佐久間副知事様、新潟市の中原市長様をはじめ皆様にご臨席をいただき厚く御礼を申し上げます。

今回は会場のご臨席の皆様とともに会場においでになれない方にはオンラインでのご参加もいただき、世界に発信する表彰式が開催できますこと御礼を申し上げます。

さて、ご承知のように新潟は、食品産業と農業が極めて発展した地域であり、コメを代表とする食料生産を始め、多様な食品産業や食の研究施設が集積し、全国に誇る高い水準を有しております。

その原点は、市内亀田郷において、水と土との壮絶な戦いから、土地改良技術と乾田化により、全国一の美田に変えた故佐野藤三郎氏をはじめ先人の不屈の精神とたゆまぬ努力にありました。

そしてその志と技術は中国黒竜江省・三江平原の農業・食糧増産のための国際協力として実践されました。

当財団は「食の新潟」を築き上げた先人達の意志を次の世代に継承するため、新潟県内の産学官民の有志の結集により、新潟が世界に貢献する事業として「食の新潟国際賞」を創設いたしました。

「食の新潟国際賞」は世界が抱える食の課題解決に挑み、食や農業の発展に顕著な業績を上げた人々や活動に光をあて、顕彰する、日本国内においては唯一の国際賞でございます。

お陰様で第6回国際賞には世界12ヶ国、87名・団体の推薦をいただきました。

選考においては唐木英明選考委員長のもと、食分野において



活躍されている9名の選考委員会において、受賞候補者を選出いただき、理事会において受賞者を決定いたしました。この場をお借りして推薦を頂いた方々と、選考委員の皆様

に厚く御礼を申し上げます。

受賞者の皆様をご紹介します。

グランプリである、大賞は、食の生産、供給、流通、消費の全プロセスに関わる業績を対象と、故中村哲氏・ペシャワール会・PMS（平和医療団・日本）が受賞されました。佐野藤三郎特別賞は研究や活動が国や地域の発展に大きく寄与し、国際的な活動でも業績を上げられた方を対象とし、受賞者は大坪研一様です。

21世紀希望賞は次世代にもつながる実践的な研究や活動を奨励する賞で、受賞者は矢野裕之様です。

今回新設されました「地域未来賞」は新潟県内において食品産業や農業分野での研究や活動が地域経済の振興と発展に大きく貢献された方を表彰するものです。

初めてとなる「地域未来賞」の受賞者は江川和徳様です。

以上、受賞された皆様の活動と業績は、まさに食の新潟国際賞の創設趣旨にふさわしい受賞であり、受賞者の皆様のご研鑽とご功績に対し、改めて敬意を表しますとともに、今後の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

当財団は今後も食の新潟国際賞を通じて、世界の食の発展や課題解決に貢献できることを願い、顕彰事業を続けたいと考えております。

最後にご臨席の皆様を始め、ご協力頂いている皆様や会員の皆様へ感謝申し上げますとともに、食の新潟国際賞へのご理解とご支援をお願い申し上げます。開会のご挨拶といたします。

閉会の辞（感謝の言葉）

田中 通泰 財団副理事長

本日は第6回食の新潟国際賞表彰式典が滞りなく行われましたことに対し、財団を代表して心から御礼を申し上げます。

また、受賞された皆様と支えてこられたご家族、関係者の皆様から心からお祝いを申し上げます。

そして、唐木選考委員長をはじめ選考委員には国際賞に相応しい受賞者を御選考いただき、御礼を申し上げます。食の新潟国際賞は2009年に創設され、今回で6回を数えました。

また、24ヶ国から延べ340名の方々の御推薦をいただき、知名度も高まっていると感じております。

その中でも2012年の「第2回食の新潟国際賞」の大賞を「WFP国連世界食糧計画」の元事務局長ジョゼット・シーラン氏に贈呈いたしました。

その後「WFP国連世界食糧計画」は「新型コロナ禍で、増大する飢餓者や難民に対する、食糧支援活動」が評価され、2020年のノーベル平和賞を受賞されました。

このことは「食の新潟国際賞」の意義と選考の先見性が証明されたもので大変光栄なことと感じております。

現在新型コロナウィルスにより、これまでの生活や行動が制限され、我々の生活様式の見直しが求められております。

一方世界は、食糧危機、温暖化、環境保全、自然災害、貧困・格差など多くの緊急課題に真剣に取り組まなければ地球が成り立たなくなっていると感じております。



このような問題を念頭に置きながら、私共食品産業に携わる者として、健康で安全な食の生産と供給について努力を積み重ね、社会貢献を積極的に進めてゆく所存であります。これまで当財団は「食と生命」をテーマに食の必要性だけでなく、食の持つ役割の重要性についても伝えてまいりました。

当財団も昨年、創立10周年を迎え、新たなスタートをいたしました。

食と生命を念頭におきつつ、(1)地域社会への貢献(2)世界と新潟を結ぶ情報の窓になるという原点を再確認いたしました。

このような活動を通じて豊かな食品産業と農業を生かした地域力ある新潟を目指してまいります。

またこの国際賞を通じて、「新潟発」の情報を世界に発信してまいります。

その為にも関係団体・行政・会員の皆様との連携を深めながら活動を進めてゆかなければなりません。

変わりないご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、国際賞と本財団を支えて頂いている皆様、そしてご臨席の皆様、会員の皆様へ心より御礼を申し上げ感謝の言葉といたします。

特別会員

亀田製菓(株)
一正蒲鉾(株)
(株)第四銀行
(株)新潟日報社
亀田商工会議所
にいがた22の会
五十嵐建設工業(株)

(株)ブルボン
サトウ食品(株)
(株)栗山米菓
(株)新宣
(株)新潟クボタ
(株)日本食糧新聞社

(学)新潟総合学園
新潟県農業協同組合中央会
亀田郷土地改良区
(株)エイケイ
NST新潟総合テレビ
ホテル日航新潟

正会員

新潟市農業協同組合
新潟県信用組合
(株)第一印刷所
(株)本間組
石本酒造(株)
(株)ミカサ
神山物産(株)
ハセガワ化成工業(株)
藤屋段ボール(株)
(株)タケショー
(株)新潟博報堂
BSN新潟放送
新潟陸運(株)
(株)新潟食品運輸
月島食品工業(株)

日本製粉(株)関東支店
日本甜菜製糖(株)
(株)鳥梅
新潟工科大学産学交流会
(株)キタック
北越工業(株)
丸榮製粉(株)
新潟万代島総合企画(株)
鍋林(株)ヘルスフーズ事業部
TeNYテレビ新潟放送網
(株)栗田工務店
三和薬品(株)
松田産業(株)
セッツカートン(株)新潟工場
東邦産業(株)

麒麟山酒造(株)
(株)加島屋
(株)日本フードリンク
(株)ディモルギア
UX新潟テレビ21
イカリ消毒(株)
新潟工科大学
(株)日本旅行新潟支店
(株)田中組
(医)愛仁会 亀田第一病院
(株)ひらせいホームセンター
ワタキューセイモア(株) 新潟営業所
(株)エヌエスアイ

個人会員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	高畑 昭文	廣瀬 利雄	山口 勉	木村 真教	君塚 毅
宗像 寛明	高橋 常考	田村 敏郎	杉本 克己	近藤 鴻	佐藤 珠美	大坪 守	大川 秀雄
大倉 正寿	吉岡 謙一	古口 日出男	坂田 武利	門脇 基二	佐藤 久栄	大谷 勝男	田中 敏明
青木 清	阿部 徳威	佐藤 勉	佐藤 清一	野上 文彰	板井 茂	浅井 善広	佐野 正人
田中 作一	新保 房機	古泉 榮三	今泉 昇	佐藤 純	倉嶋 則昭	塚本 太一	大越 斎
野口 正晴	酒井 定勝	加藤 洋介	長谷川 宏志	齋藤 秀明	松本 裕志	當野 篤	高山 利夫
久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修	望月 健三郎	山田 雄治	鈴木 正二	竹石 松次
古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一	渡邊 信也	丸山 美由紀	井浦 康晴	宇野 勝雄
赤塚 義廣	坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子	齋藤 博文	斎藤 幸広
田辺 俊文	小田 静二	渡邊 徹	中村 好彦	栗田 浩	栗田 朋子	阿部 文仁	高尾 茂典
五十嵐 豊	久代 勝英	古泉 幸一	加藤 純子	松島 謙介	高倉 広利	清水 泰成	中野 節子
阿部 愛子	大島 煦美子	宮口 澄子	青木 太華子	五十嵐 康子	五十嵐 早苗	佐藤 金治郎	佐藤 文男
高橋 征男	高橋 克郎	田中 洋介	田村 泰生	山崎 尉生	中村 雪絵	村山 浩太郎	稲葉 晋
川崎 千春	秋山 正之	松川 忠史	濱野 剛	山根 憲介	池田 祥護	星野 幸三	糸満 盛人
伊豆 智	小林 哲也	井東 昌樹	遠山 幸男	小野 隆樹	大橋 祐貴	前田 穰	桐原 隆晃
長井 基樹	岸田 良満	樋熊 隆治	小林 宏志	柳澤 敏郎	田中 一幸	遠藤 俊介	葉葦 正幸
星野 聡	高崎 三男	桑原 毅	大日方 聡	石田 道子	須貝 貴之	宮下 好文	中村 祐一
田中 雅史	藤間 佑輔	品田 卓也	渋谷 政道	村山 雄亮	北爪 文義	近藤 正	高橋 佑
荒井 弘美	重泉 篤史	本間 康弘	降旗 亮太	中野 克之	国松 豊	最上 正人	森本 昌章
佐藤 正尚	下條 幸二	廣川 正通	小谷 尚志	高橋 道映	田中 弼	尾崎 清美	佐藤 浩晃
村山 和恵	小林 達	佐藤 善昭	酒井 栄一郎	佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也	杉谷 浩一
佐々木 一	金田 季之	宮島 泰	高崎 俊哉	高橋 裕作	小平 勝志	齋藤 文彦	藤田 正明
池田 一史	石崎 宏幸	小嶋 孝代	田村 和男				